草の根技術協力事業紹介

「草の根技術協力事業」とは、日本のNGO・大学・地方自治体及び公益法人等の団体が、これまでに培ってきた経験や技術を活かして企画した途上国への協力活動をJICAが支援し、共同で実施する事業です。
北陸での草の根技術協力事業をご紹介いたします。

NPO法人 世界の砂漠を緑で包む会
中国国家林業局等から表彰

2011年3月11日、石川県のNPO法人「世界の砂漠を緑で包む会」(以下、「包む会」)は、10年以上にわたる中国・内モンゴルアラシャン地域での砂漠化防止活動の実績が認められ、北京人民大会堂にて中国全国緑化委員会、中国国家林業局、国連環境計画(UNEP)、中国緑化基金会の4団体から表彰されました。また、「包む会」会長の大沢俊夫氏は代表として「2010生態中国突出人物賞」に選出され、トロフィーと表彰状が授与されました。

「包む会」は様々な民間団体・市民の支援を受けながらJICAと連携し、砂漠化が激しく流動砂丘の被害が最も大きいテンゲル砂漠の東縁に長さ13km、総面積1500万㎡を超える“緑の長城”を築きました。この活動は現地で大変注目されており、砂漠化防止のモデルケースとなっています。

また「包む会」では、砂漠防止活動と並行して地域の「貧困農牧民」の生活向上を目指し、地下水をあまり使わず大地に負担をかけない農牧研修も行っています。そのほか地域の学校・コミュニティ・企業団体等に呼びかけ、植林のボランティアや環境教育活動も実施しています。

大沢会長は「このアラシャンモデルの経験をさらに広げ、地球規模の生態環境問題の解決と豊かな自然環境を未来の子供たちにつなげたい」と、さらなる活動への意欲を示しておられました。

NPO法人世界の砂漠を緑で包む会
http://www8.plala.or.jp/tutumkai/index.html

中国全国緑化委員会副主任の王志宝氏(左)と大沢俊夫氏(右)

左)表彰された大沢氏
中)砂漠に水をまくようす
右)砂嵐の中、苗木の植林

NPO法人 コラボNPOふくい
アフリカ農業の活性化に向けて

福井県のNPO法人「コラボNPOふくい」は以前よりアフリカの農村開発に関わるJICA研修員を受け入れてきました。この活動に携わるうち、アフリカ農業に共通する問題点に気がつきました。また、研修生から農業発展・農村開発サポートへの要望もあり、アフリカ農業における問題解決のための農業・農村活性化プロジェクトを実施したいと考えるようになりました。

そこで2011年2月、将来的に「JICA草の根技術協力事業」に発展させたいという考えのもと「コラボNPOふくい」はJICA北陸の「海外プログラム」を活用し、アフリカ農業の現状を調査するため、ザンビアに渡航しました。

理事長の牧野安雄氏は「実際に現地を見ることによって、現場の状況がわかると共にさらに調査が必要と感じた」と語り、次の調査活動への意欲を示されていました。

NPO法人コラボNPOふくい
http://collabo-npo-fukui.com/

メイズ(粉用トウモロコシ)畑を調査する牧野氏。“メイズ”はザンビアの基本食

中心市街地であるルサカで開かれるセントラルマーケット。さまざまな農作物が並びます

民間連携

JICAの新たな取り組みに注目!

NEW

「民間連携」は途上国にとっても、企業にとってもそしてJICAにもメリットのある、Win-Win-Winの関係構築を目指す取り組みです。

民間にとってのメリット

- **緩やかで有利な条件での資金提供の可能性**
- **JICAの各種援助スキームで支援する可能性**
  例:政策・制度改善、運営維持管理等への技術協力
- **途上国での事業実績を通じた先方政府との関係を活用したリスク軽減の可能性**
  例:料金政策の実行への提言
- **途上国におけるネットワーク・知見の提供**
  例:現場レベルでの情報不足の補完

開発途上国の貧困削減に資するビジネスの実施、経済開発に必須のインフラの整備と活用、これらは近年グローバルな競争の激化と貿易投資障壁の低下を受け、労働力、資源そして市場確保等のため、途上国への進出・投資を拡大している民間企業にとっても、可能性を認識しながらもリスクを感じる分野でしょう。

JICAはそのリスク軽減のお手伝いができるようになりました。BOPビジネス(注1)やPPPインフラ整備(注2)の案件発掘・形成調査への資金提供、そして、海外投融資による事業への融資・出資です。もちろんその獲得にはJICAが目指す「全ての人が恩恵を受けるダイナミックな開発」に資するか、という審査のクリアが必要です。

詳しくはJICAホームページ「民間連携」やJICA北陸の「民間連携」ページをご覧下さい。また、ご興味のある企業の方々はJICA北陸までお問合せくださるようお願いします。

■JICAホームページ
http://www.jica.go.jp/index.html

■JICA北陸ホームページ
http://www.jica.go.jp/hokuriku/index.html

注1・・・BOPビジネスとは
ベイス・オブ・ザ・ピラミッド(英語: Base of the Pyramid)。購買力平価で年間所得が3,000ドル未満の層を指す。世界人口の約72%(約40億人)を占めるといわれている、これらの人々の開発課題の改善に資するビジネス。

注2・・・PPPインフラ整備とは
パブリック・プライベート・パートナーシップ(英語: Public Private Partnership)=官民協働。従来公共事業で行なわれてきたインフラ整備に官民の役割分担の下で、一部に民間活力を導入して行うもの。

新スタッフ紹介

JICA北陸新スタッフ紹介!

新しい顔ぶれも加わり、さらなる国際協力を目指します!

関東水木会会員!

ボリビア農村地域の自立支援の一環として手工芸指導のために協力隊員として派遣されたのはひと昔以上前のこと。ガスランプの下で村人達と内職に励み、川で水浴した日々を夢のように感じます。考案した村祭りの布人形が、数年前にボリビアを訪れた際に国際空港の免税店で販売されているのを見たときは「ああ、私がこの地にいた足跡が残っている。」と思ったものです。世界に足跡を残したい方々のお手伝いをいたします。

荒谷 尚子
ボランティア事業支援業務担当

これまでスリランカ、ホンジュラス、インドネシアと渡り歩き、ついに北陸に辿りつきました。途上国に住むのも新鮮でしたが、北陸出身ではない私が北陸で暮らすのもまた新たな驚きと感動があります。
北陸のことを学びながら、北陸の良さを発見し、それを途上国の人々にも知ってもらいたいです。北陸の人々と途上国の人々をつなげるために、この地で多くの人と出会いを持ちたいと考えています。

得意料理はスリランカの本格カレー!

石橋 裕子
市民参加協力調整員

ベリーズでのあだ名は「シーコ」

青年海外協力隊として中米のベリーズに派遣され、今年の3月に帰国いたしました。ベリーズで過ごした2年間は自分の人生の白眉の2年間とも言える素晴らしい経験をさせていただきました。そして今、石川県国際協力推進員として、この国際協力の経験を地元北陸に還元させていただける機会をいただいた事には非常に感謝しております。みなさんと一緒に国際協力について考えて行きたいです。

山口 浩司 石川県国際協力推進員

「地球の広場」の作成など、広報活動に携わっています。前職ではWEB制作会社に勤めており、国際協力についてはあまり詳しくありません。ですが、無知だからこそ出来る広報活動があるのではと思っています。「知らない」という目線を大切に、発信していけたらと思います。「JICAって何?国際協力って何?」という方、是非一緒に勉強していきましょう!

猫大好き!

西田 珠実
広報スタッフ

前職はまったくJICAとは無縁の仕事をしていましたが、ニュージーランドへ留学をしていた時に協力隊OBの方と出会い、名前は知っていたものの初めてJICAの仕事内容を知りました。
今回、JICA北陸支部の一員として働くことができてとてもうれしく思っています。もともと海外の人々と触れ合うことが大好きなので、研修員の方たちを通して世界各国のスイーツを学んでいきたいと思っています!

小南 菜々子
研修スタッフ

元パティシエ!